

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2598 号

Risk factors for infertility treatment-associated harassment among working women: a Japan-Female Employment and Mental health in assisted reproductive technology (J-FEMA) study

日本人女性における、職場での不妊治療関連のハラスメントのリスクファクター： J-FEMA スタディ

植田 結人（うえだ ゆいと）

博士（医学）

論文審査結果の要旨

本論文は、職場での不妊治療関連のハラスメントのリスク因子を初めて明らかにした、臨床的に意義のある論文である。

本研究は、不妊治療専門の外来に通院する女性患者を対象に、自記式質問紙（調査票）を用いて行った疫学研究である。不妊治療関連のハラスメント経験の有無、年齢、不妊期間、体外受精の回数、学歴、居住地、職場規模、雇用形態、職場への不妊治療の開示などに関する設問を含む調査票への回答が得られた 1,727 人の女性患者のうち、調査実施時に就労していた 1,103 人の女性患者を本研究の解析対象とした。

多変量ロジスティック回帰分析を用いて職場での不妊治療関連のハラスメントに対するリスク因子を検討した結果、体外受精の回数が多いことの多変量調整オッズ比（95%信頼区間）は 1.06（1.01-1.10）であった。また、職場に不妊治療をしていることを伝えていることの多変量調整オッズ比は 1.80（1.03-3.15）であった。

令和 4 年 4 月より不妊治療が保険適用されたことから、不妊治療と就労の両立支援は、今後も重要性が増すと考えられる。その一方で、不妊治療と就労に関する研究報告は少なく、職場での不妊治療関連のハラスメントの要因を明らかにした本研究結果は、不妊治療に関する社会的な議論や不妊治療と就労の両立支援の発展に資することが期待される。

よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。